



## ふくしとコロナ

## welfare & covid-19

ペンネーム

Writer / 災害ボランティアさん（桜木町）

コロナ禍で、市民の皆様の中には、健康面、仕事面、精神面、経済面で大変な思いや、ご苦勞をされている方々が、たくさんいらっしゃいます。とても他人事ではなく、少しでも支えになればと思います。みなさん、たいへんです、前を向いて行きましょう。

そして、こんな時にこそわかち合って、手を差し伸べてみませんか。助け合って大切です！地域の力って大切です！頑張ろう登別♥頑張ろう北海道♥

コロナ禍で日頃感じる思いや、頑張っている地域の仲間たちへのメッセージを募集中！市民であればどなたでも【本名かペンネーム、お住まいの町名を添えて200文字以内で】裏面問い合わせ先までメールか郵送でお寄せ下さい。

※本誌以外の本会発行物に掲載させていただく場合があります。

## 市内活動情報

### 福祉の心を伝え続ける 出前福祉講座

市民の福祉の心を育むことを目指し、学校や団体・企業などで行っている「出前福祉講座」。今年度は、コロナ禍でも安全に実施できるようプログラムを工夫し、人との距離が近くなる車いす体験や視力障がい者の誘導などの介助体験は行わず、障がい当事者の皆さんからの講話を中心に企画しています。

2月19日、ボランティア団体「登別手話の会」にご協力いただき、鷺別小学校5年生を対象に聴覚障がいのテーマで福祉の学びを深めました。手話の会会員でろうあ者の伊藤さんが講師となり、子どもたちからの質問に答えるコーナーや、自身の生活で感じていること、愛用の道具、趣味のアイヌ刺繍作品などについてお話しし、子どもたちは真剣な様子でメモを取っていました。後半は手話の基本的な挨拶や指文字と一緒に練習し、自身の名前を手話で発表する場面ではクラス全体がひとつに。伊藤さんとの出会いを通し、子どもたちの中に新しい気付きや想いが生まれたようでした。

講座中は手話の会の会員が耳の聞こえない伊藤さんと子どもたちの間に入り、常時手話通訳を行ってサポート。出前福祉講座は当事者の方だけでなく、こうしたボランティアの皆さんのご協力で成り立っています。

伊藤さんは、「伝えたいことが多くある中、コロナ禍で普段より実施時間が短く大変だが、子どもたちに障がいについての理解を広められることは嬉しい。特に聴覚障がいは見た目ではわからないので、

普段の生活でどんな困りごとがあるかをもっと多くの人に知ってもらいたい」と話してくれました。今は皆がマスクを付けているため、口の動きを読み取ることができずコミュニケーションに困難を感じるそうで、「出前福祉講座を通し、この町で皆がより良く暮らせる方法を一緒に考えることができた」と講座への想いを語ってくれました。会の代表を務める手話通訳者の坂元さんは、「手話で日本語のわずかな意味の違いを伝えるのが大変なこともあるが、無事に伝わるとホッとする。自分たちが間に入ることで人と人がつながると嬉しい」と笑顔で話してくれました。会員同士のきずなを活かし、コロナ禍でも活動を続けています。



▲手話通訳を担当する会員が伊藤さんと向かい合いサポート



## 他団体情報

### 「コロナ禍における町内会活動スタイル」発行

登別市連合町内会、登別市市民協働グループで作成した本誌は、コロナ禍でも地域がつながることを目指し、今できる取り組みや、活動の注意点などをわかりやすく紹介しています。

各町内会へはすでに発送されている他、希望の方には登別市連合町内会よりお渡しが可能です。詳しくは登別市連合町内会事務局（84-1079）までお問い合わせください。



本会作成のまごころレターも紹介されています！

# Kizuna &

地域福祉活動のお悩みは社協まで



社会福祉法人 登別市社会福祉協議会  
〒059-0016 登別市片倉町6丁目9-1  
総合福祉センターしんた21内  
TEL / 0143-88-0860  
web / <https://kizuna-shakyo.jp/>  
mail / [info@kizuna-shakyo.jp](mailto:info@kizuna-shakyo.jp)